

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0872000963		
法人名	有限会社 メディカルアシスト		
事業所名	グループホーム 楓		
所在地	茨城県つくば市上広岡503-8 (電話) 029-857-8255		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年12月15日	評価確定日	平成21年4月7日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の人々と利用者が行事を共に行うなどの係わりのなかで、家庭的な生活ができることを理念とし支援している。
地域密着型サービス連絡会を設立するとともに、代表となって市との連絡調整や事業所間の連携、交流に積極的に取り組んでいる。
利用者の希望や状態把握に事業所独自のケアネットという方式で記録したものを介護計画や職員の共通理解に活用している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 金銭管理状況を利用料請求時に家族に報告している。 利用予定者と昼食を摂るなど馴染んでもらってからサービス利用を開始している。 利用者や家族から終末期の希望を聴くとともに、医師や看護師と話し合い職員が共有して支援をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 全職員が外部評価や自己評価の意義や目的を理解している。 自己評価は、管理者とユニットの代表者が話し合っ作成し、職員に周知しているがサービス提供状況の確認や気づきにつなげるため全職員で自己評価に取り組むことを期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 前回の運営推進会議ではインフルエンザ対策について話し合ったほか、委員から認知症に関する研修の実施要望があり、介護教室の開催が決定した。 区長や民生委員を通して事業所の行事に地域の閉じこもり高齢者の参加を呼びかけている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 玄関に意見箱を設置しているほか、意見や苦情の相談受付窓口を重要事項説明書に明記している。 家族との面会時に意見を出してもらえるよう雰囲気づくりに配慮するとともに、意見や要望があった場合はカンファレンスを行い、その結果を報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） ホーム主催の花見や納涼祭に地域の人々を招待したり、保育所や小学校の行事に参加するなど地域の人々と交流している。 地域の人々が野菜などを持って気軽に立ち寄っている。 利用者と職員で自警団を組織しパトロールを行うとともに、缶拾いなどの清掃活動に協力している。</p>

【情報提供票より】（平成20年10月31日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月19日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	10人, 非常勤 7人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋平屋 造り		
	1階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(90,000円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成20年10月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2	要介護2	7		
要介護3	6	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 82 歳	最低	63 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	阿見第一クリニック	阿見第一クリニック 歯科
---------	-----------	--------------

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人々と利用者が行事を共に行うなどの係わりのなかで、家族的な生活ができることを理念とし支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送り時に理念を全員で唱和している。 また職員のネームプレートの裏に理念を記載し、常に理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム主催の花見や納涼祭に地域の人々を招待したり、保育所や小学校の行事に参加するなど地域の人々と交流している。 地域の人々が野菜などを持って気軽に立ち寄っている。 地域貢献のため介護教室の開催を予定しているほか、地域の閉じこもり高齢者への行事参加を呼びかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価や自己評価の意義や目的を理解している。 外部評価で出た課題をカンファレンスで話し合い改善している。 自己評価は管理者とユニット代表者が話し合って作成し職員に周知している。	○	サービスの質の向上や気づきにつなげるため、全職員で自己評価に取り組むことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議ではインフルエンザ対策について話合ったほか、委員から認知症に関する研修の実施要望があり、介護教室の開催が決定した。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政と頻繁に行き来する機会があり、市担当者との意見交換や指導を受け、サービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用料請求時に利用者の様子や金銭管理状況を報告している。 年3回広報誌を家族等に送付している。 ほとんどの家族が頻繁に訪れるので、利用者の状況を直接報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているほか、意見や苦情の相談受付窓口を重要事項説明書に明記している。 家族との面会時に意見を出してもらえるよう雰囲気づくりに配慮するとともに、意見や要望があった場合はカンファレンスを行い、その結果を報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる場合は引継ぎ期間を長く取るなど、利用者へのダメージを少なくする配慮をするとともに職員の離職を最小限に抑えるため、職員による食事会やフットサルチームをつくるなど職場の雰囲気づくりに配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し研修や勉強会を行っている。 また、外部研修後報告書を作成するとともに報告研修をしている。 計画作成担当者が大学講師も兼ねているので、職員の資格取得の試験対策などもしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回つくば市内の地域密着型サービス連絡会の定例会や他施設相互訪問などで交流し、サービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族とよく話し合い、昼食を一緒に摂りながら雰囲気を味わってもらうなど徐々に慣れてから利用を開始している。 また、スムーズなサービス利用に向け隣接地に小規模多機能型居宅介護施設の建設を予定している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や事業所独自のケアネット(利用者ごとの行動メモ)からできることを探し、生きがいを見つけられるよう支援している。 職員は畑作業や料理、縫い物などを教わり、共に支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者とコミュニケーションを多くとり、事業所独自のケアネットに記録し、利用者の思いや意向を把握するとともに全職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアネットで把握した利用者の希望や家族の意見を基に、職員や関係者が意見交換を行い、希望にそった介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアネットや経過記録を基に定期的に見直しをするとともに、利用者の状況に変化が生じた場合は随時家族と面接やアセスメントを行い、介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問介護事業所との契約により医療連携体制を強化し活用するほか、利用者や家族の状況や要望にそって柔軟に支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者にかかりつけ医か協力医療機関の希望を確認し健康管理に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族から早い段階で終末期の意向を聞くとともに、医師や看護師とも話し合い、段階に応じて方針を繰り返し確認しながら職員が共有し、ホームでの生活維持のための支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は接遇の研修を受けており、マニュアルも作成している。 利用者のプライドを傷つけない対応に配慮するとともに、個人情報や鍵のかかる場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアネットの情報を基に、一人ひとりのペースに合わせた生活を支援している。 カラオケで楽しんだりパトロールで社会の役に立っていることを実感したり、その人らしく暮らせるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の雰囲気づくりとしてランチョンマットを敷き、利用者に調理や味付け、配膳、下膳など出来ることを担ってもらえるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望にそって入浴支援をしている。 菖蒲湯やゆず湯など季節感を味わい楽しく入浴できるよう工夫している。 入浴を嫌がる利用者には家族の協力を得て対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力を活かした役割をつくり、生きがいを感じてもらえるよう支援している。 野菜作りでは成長を楽しみ収穫を利用者と共に行い、新鮮な野菜を食べる喜びを分かち合っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は外気浴や外でお茶飲みをしたり、買い物や自警団パトロールなどで外出している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の帰宅願望を把握し、見守りや目配りにより玄関に鍵をかけない支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち合いのもと地域の協力を得て消防訓練を実施している。 ホーム分の非常用食料は避難場所に確保されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	設置法人の栄養士から献立のアドバイスを定期的に受け、バランスの良い食事を提供している。 水分や食事の摂取量をチェックし記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物や植物で季節感をだし家庭的な雰囲気づくりをしている。 日当たりの良い廊下にソファを設置し、利用者がゆったりくつろげる居心地の良い空間づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの家具を自由に持ち込み、居心地良く生活できるよう配慮している。 また、毎日筆筒整理などの環境整備の支援をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。